

# 登山月報



岩手山々頂の鈴木長官



**8月11日** みんなで山を考えよう!  
祝「山の日」  
全国「山の日」協議会  
山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.581

スポーツライミング.....	2
第31回リードジャパンカップ愛媛大会 報告	
第56回全日本登山大会報告書 .....	3
平成29年度全国参与会報告 .....	4
斎藤一男さんのお別れの会.....	4
第105回 Mountain World .....	5
「山の日」制定記念一ふるさとの山に登ろう .....	6
平成29年度全国山岳遭難対策協議会報告 .....	7
平成29年度遭難対策委員会研修会兼総会 .....	9
平成29年度年指導委員総会及び研修会開催 .....	10
スポーツ指導者制度を考える.....	11
平成29年度自然保護常任研修会 .....	12
JMA、寄贈図書、編集後記 .....	13

# スポーツクライミング 第31回リードジャパンカップ愛媛大会 報告

会場：愛媛県西条市石鎚クライミングパーク SAIJO  
 日時：6月10日(土) 予選、11日(日) 準決勝、決勝  
 参加：男子57名、女子29名

成績：女子(決勝)

順位	名前	予選		準決勝		決勝	
		高度	順位	高度	順位	高度	時間
1	森 秋彩	TOP	1	TOP	1	TOP	1
2	栗田 湖有	TOP	1	32	3	37	2
3	高田 ころこ	TOP	1	32	3	35+	3
4	大河内 芹香	TOP	1	27+	8	35+	4
5	平野 夏海	TOP	1	TOP	1	31	5
6	坂井 絢音	TOP	1	32	3	29+	6
7	菊沢 絢	33	11	28+	6	29	7
8	原田 朝美	32+	12	28+	7	16+	8



決勝 森秋彩選手

成績：男子(決勝)

順位	名前	予選		準決勝		決勝	
		高度	順位	高度	順位	高度	時間
1	本間 大晴	TOP	1	36	5	40+	1
2	高田 知堯	TOP	1	37	3	38	2
3	村井 隆一	TOP	1	35+	6	36+	3
4	樋口 純裕	TOP	1	37+	1	35	4
5	清水 裕登	TOP	1	35+	6	35	5
6	徳永 潤一	28+	8	35+	8	31+	6
7	大高 伽弥	TOP	1	37	3	18+	7
8	今泉 結太	TOP	1	37+	1	16+	8



決勝 本間大晴選手

愛媛国体のリハーサルとして、第31回リードジャパンカップを石鎚クライミングパーク SAIJOにて行われた。

今回、日本代表選考大会ではありませんが、そろそろ始まるリードワールドカップのトレーニングを意識した選手、多くのユース世代の選手と幅広い参加がありました。

6月10日の予選は、快晴で暑い環境であったが、上位は女子6名、男子7名が完登するなど実力とおりのパフォーマンスを発揮。

6月11日の準決勝は、前日と打って変わって朝方は雨模様。心配されたが競技の始まるころには、雨も上がり気温が低い分、良いコンディションとなった。やはりここでも名のある選手が順当に勝ち残る状況となる。ただ男子は、完登なく混戦模様。

決勝女子は、森が一人完登。昨年この大会で優勝。3月の日本選手権で3位、4月の日本ユース選手権リード(ユースB)で優勝と確実に強さが増してきていると感じた。一つ一つのムーブを見ても無駄がなく素晴らしい。今後どこまで行くのだろうか。2020年が楽しみだ。

男子は、矢羽型のハリボテが続く5.13c/dのルート。バランスを含め総合力が要求されるルート。それを、本間が確実に処理し完登に近いところまで登る。逆に、昨年ワールドカップで5位の樋口が本間の数手前で落下、準決勝1位の今泉が下部で失敗するなど波乱が起きた。それだけルートは難しく、ちょっとしたミスが結果に影響するほど実力は伯仲していると感じた。

また運営面では、開催地の取り組みが十分できていると感じた。国体のリハーサルとしては、一部設備や施設(天候対策、逆光対策、リード壁側壁、動線レイアウトなど)の改善課題はあるが、壁の屋根工事も計画されており、他の課題も可決できる範囲と考える。そしてビレイヤーなどスタッフにおいても、高いレベルにあり、岳連、市の連携も取れており、素晴らしい国体となること間違いなしと感じた。

ただ、権利関係と、メディア対応の件は慣れていないためこちらで対応。首都圏で行う大会の体制までいれないが、配布資料、動線(ENG、スチール、ペン)の管理を実施。地元を含め10社以上の来場があった。スポーツクライミングへの認知度向上もあるが、一部選手による影響が大きい。

(競技委員長 村岡正己)

第56回全日本登山大会は平成29年7月6日(木)～8日(土)までの3日間支笏洞爺国立公園に位置する羊蹄山、ニセコ積丹小樽海岸国定公園のニセコ山系で全国からお迎えした255名のみなさんと60名の地元役員によって開催されました。

全国の岳人が新緑の大地北海道の自然にふれ、登山技術の向上と親睦を図る。山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する「山の日」を継続的に発展させ自然を守り安全登山の啓発を続けることを大会目的にしました。またスローガンには「湧水の羊蹄山と緑萌えるニセコ山系」とし古代から脈々と吹き出る湧水、雄大且つ緑美しい北海道を謳いました。

本大会に先立ち会場の設定に実行委員会は苦労しました。宿泊先の問題、交通の利便性、選定する山の都合等々何度も協議を重ねその結果上記に決定し、一丸となって取り組みました。さいわい北海道、札幌市、地元8自治体と開会式を行う定山溪ビューホテル、りんゆう観光の全面的な協力を得ることができました。

大会当日は稀にみる炎天下の元、それぞれの登山隊が山男、山女の実力を発揮してくれました。特に羊蹄山4コースの頑張りには大会前の危惧と裏腹に敬意を表します。本大会参加者みなさんの期待に応えることができたかは想像の域ですが、事故もなく終えたことは本部の一員として安堵しているところです。そして関係者のみなさんに心からお礼を申し上げる次第です。

大会1日目は開会式に日本山岳・SC協会八木原会長、尾形専務理事、仙石常務理事を来賓には北海道知事(代理)文化スポーツ局長甲谷恵氏、札幌市長秋元克広氏を迎え挨拶を頂戴する。

記念講演は、日下哉氏の「北海道の自然環境と登山」と題して行われました。並行して全国参与会が開かれ闊達な意見が交わされました。



定山溪ビューホテルでの開会式

大会2日目は大会会長の言葉「あなどるな、過去の体力、過去のもの」を秘め早朝4時30分に羊蹄山登山隊がE1-40名、E2-38名、F-46名、G-32、8時にA-23名、B-18名、C-16名、H-12名と全員意気揚々と出発しました。

Aコースは、ニセコアンヌプリ(1,308m)のピストンコース。深緑と360°のパノラマに大満足です。

Bコースは、イワオヌプリ(1,116m)～ニトヌプリ(1,080m)の縦走コース。それぞれ硫黄の山、森のある山はアイヌ語からきています。露出した岩肌を通り抜け可憐な花を愛でながらでした。

Cコースの沼巡りは大谷地、神仙沼の高層湿原帯です。ゆっくりと思いのままに散策ができました。

E、F、Gコースは、羊蹄山(1,898m)を4隊に分けての集中登山です。コースタイムの長さ、標高差の大きさ、予想もしなかった記録的灼熱に見舞われ、みなさんのご苦勞を思うと頭が下がる思いでした。そのなかで頑張りとおし完登できたことは特筆に値します。

Hコースは、尻別岳(1,107m)のピストンコース。スキー場リゾート地を横目にやや花シーズンが終わっ



弾む足取り



外輪山 ヤッホー!

ていましたが目の羊蹄山を十分に堪能できました。

炎天下のなか下山後に立ち寄った「吹き出し公園」の湧水が五臓六腑に沁みこむのを感じ取りましたとみなさんの談に納得でした。

交流会は到着隊待ちで30分遅らせ19時から開始としました。郷土料理、地酒に舌鼓をうち山行談義に花が咲き、あっという間の一時でした。そしてアイヌ民族の唄、踊りにみなさんが輪になり盛り上げていただきました。

大会3日目は自由解散、オプションツアーへの出発とみなさんを送りました。

今大会を振り返って同一ホテルに2泊できたことは行動に余裕ができたかと感じています。それに伴い登山会場までのバス移動が長かったことはお許しをいただきたいところです。

全国から225名のみなさまが参加されたこと、何より快晴のなか(暑すぎた)で行われたことに喜んでいきます。そして道岳連にお褒めの言葉をいただき感謝する次第です。次回開催の京都山岳連盟にエールを送り56回大会の報告としてあらためて心からお礼申し上げます。(記 大会運営本部長 明田通世)

## 平成29年度全国参与会報告

第56回全日本登山大会・北海道大会に合わせて7月6日(木)に札幌・定山溪ビューホテルで全国参与会が開催された。本協会からは坂口・神崎顧問、八木原会長、尾形専務理事、仙石常務理事、内藤監事ら6名の顧問・役員が出席し、参与は全国から13名が参加された。

八木原会長挨拶の後、この1年に逝去された齋藤一男元会長(2月)、高室陽二郎元副会長(4月)、阿地政美(北海道、1月)、四戸寛次郎(岩手、5月)、中嶋正夫(福島、6月)、幸田賢司(鹿児島、2月)各参与ら6名の物故者に黙祷を捧げ、謹んでご冥福をお祈りした。

永年参与感謝状贈呈者は、2年続けて該当者無し、となった。

次いで尾形専務理事より、法人名称の変更、組織の改編、新役員体制及び平成28年度財政状況、事業概況等について報告した。

参与からの質疑応答では、年々参与が減少している。もう一度全国に呼びかけて増員を図るべきではないか。

ジュニアの普及事業も大事だが、日山協の傘下にはシニアの方々も多いのだからシニア育成事業にも取り組



羊蹄山山頂

んで貰いたい。山岳遭難事故が減らない。安全登山対策に力を入れて貰いたい。公益法人として森林事業の人たちなど山を取り巻く人たちにも目を向けるべきではないか。祝日「山の日」に寄せる世間の期待度は高い。然し岳連とのギャップが大きい。具体的な企画推進するなど対応を考えるべきだ。などのご意見を頂いた。(記 尾形好雄)

## 齋藤一男さんのお別れの会

7月29日(土)に東京・アルカディア市ヶ谷で本年2月24日に逝去された齋藤一男元会長のお別れの会が、日本山岳文化学会、(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会、日本勤労者山岳連盟、(公社)東京都山岳連盟、山学同志会、東電山ノ会が発起人となって開かれ、110名が参会された。

参会者の献花の後、発起人を代表して日本山岳文化学会の酒井國光会長から挨拶を頂いた後、「お帰りの際に齋藤さんの著書を持ち帰って頂きます。」と語られ、著書と追悼集『碩学の人』が配られた。

続いてお別れの辞として八木原啓明会長、深田良一山学同志会OB会会長、林昭雄東電山ノ会会長から在りし日の故人を偲ぶお言葉があった。

其の後、西本武志日本勤労者山岳連盟会長のご発声で献杯が行われ、会場の隅々で故人を偲ばれていた。



## 第105回 Mountain World

### アルジュナ西壁の新ルート登攀

池田常道

インドのキシトワール・ヒマラヤは、1970年代から90年代初めにかけて注目を集めた。標高は6000m台だが険しい山容のピークばかりで、単純に初登頂を求めるような登山隊はほとんど近寄らなかつたから、ここはアルパインクライマーの独壇場だった。

1974年、クリス・ポニントンとニック・エストコートによるブラマーⅠ峰初登頂をきっかけに、英国勢は山群東部の山々へ活動領域をひろげた。スティーブン・ヴェナブルズのキシトワール・シヴリン、ミック・ファウラーのセロ・キシトワール等々である。一方ポーランド勢は、キジャイ・ナラのアルジュナやザンスカール境界のハグシュに凱歌を上げた。

ところが、カシミール情勢が不安定化した90年代半ばからこの山群の登山・トレッキングは禁止され、15年以上にわたって空白時代が訪れた。

再解禁の兆しを見てとったダーフィット・ラマ(オーストリア)は、2011年にスイス勢とセロ・キシトワール南壁を登った。ミック・ファウラーは14年秋にハグシュ(6657m)遠征を計画したが、現地でマルコ・プレゼリ(スロヴェニア)一行と鉢合わせしてしまった。しかも、優先順位は入山の早いスロヴェニア隊が先。結局、プレゼリ隊がハグシュ北壁を登り、ファウラーは、ポール・ラムズデンと別ルート(北東壁)を採ることを余儀なくされた。

このときプレゼリはリモ山群への入山がかなわず、現地エージェントの勧めにしたがってキシトワールへやってきたのだった。彼は15年にもセロ・キシトワール(6173m)東壁を初登攀した。メンバーはプレゼリとウルバン・ノヴァク、マニュ・ペリシエ(フランス)、ヘイドウン・ケネディ(アメリカ)である。これらの訪問でこの地の概念を把握し、その魅力に目覚めたプレゼリは、後者の帰途、記録の少ないキジャイ・ナラを探ってみるつもりだったが、セロ・キシトワールの登攀に日数を食われたため断念した。

セロ・キシトワールに行った4人のうちペリシエ(フランス)を除く3人は翌年秋に出かけるつもりだったが、出発する1週間前にラトックⅡ峰における友人の行方不明事件(昨年10月号参照)に接したケネディ

が抜け、一時延期となった。

計画は半年後の5月に再興された。ケネディの代わりに、ハグシュへ行ったアレシュ・チェセンが入り、3人は5月29日にBCを設けた。目標は、83年に固定ロープ500mを駆使して登られたアルジュナ(6250m)西壁の新ルートである。

前2回は秋を選んだプレゼリは、春のほうがアルパイン・クライミングに適しているのではないかという期待も抱いていた。実際、16年秋に入山したクリス・ギビッシュとジェフ・シャピロ(アメリカ)は、コンディションのあまりな悪さからこの壁を諦め、ブラマーⅡ峰の南壁を登っている。日当たりがいいため、雪崩の危険を避けようと未明から行動を起こす慎重さが要求された。

アルジュナに取りかかる前に、西壁の対岸にある6013m峰(79年ポーランド隊が初登頂)を新ルートの北稜から往復した。GPS計測で頂上は6038m。アルジュナ西壁が手に取るように見え、ルートの目途を付けることができた。

6月16日、登攀開始。下部の氷壁は状態がよく、ほとんどロープを結び合うことなく登ることができた。続く6ピッチのミックス壁では、ときたま襲う湿雪雪崩に悩まされたという。この日は、核心部手前でビバークした。翌日は、ミックスの3ピッチを克服するのに8時間を要した。傾斜の強い氷を1ピッチで越えると、7ピッチにわたって雪壁が続いていた。核心部に時間を費やしたため、この日は頂稜まで3ピッチを残してビバークとなった。

頂上に立ったのは18日の昼ごろだった。通算第2登、アルパインスタイルでは初めてである。ルート名はAll or Nothing(1400m、ED+)。登路伝いに懸垂下降し、真夜中近くABCに帰った。



アルジュナ西壁。赤い線がプレゼリらの登攀したライン All or Nothing 1400m ED+(MM7+ WI5+ A0)

# 「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

岩手山

## 祝日「山の日」制定記念イベント2017年 みんなで鈴木大地スポーツ庁長官と 「ふるさとの山・岩手山を登ろう！」 キャンペーン

山の日制定記念「ふるさとの山を登ろう！」キャンペーンが、スポーツ庁の鈴木大地長官や地元スポーツ少年団、そして県内外の登山愛好者1,500名の参加のもと7月1日(土)の岩手山の山開きとコラボ企画で実施されました。今回の企画は、(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会主催でスポーツ庁、観光庁、東北地方環境事務所、岩手県等の後援のもと岩手県山岳協会が主管して開催しました。

当日は、前日までの猛暑とは違って変わって霧雨のなか、標高633mの馬返し登山口で、午前6時から山開き神事が行われ、柳村典秀滝沢市長、鈴木長官、県山協高橋時夫会長らが玉串奉奠、鈴木長官は挨拶で山での事故防止を呼びかけた。テープカットのあと地元岩泉町バレーボールスポーツ少年団の女子6名に八幡平市の男子小学生3名も合流して2,038mの山頂を目指して出発。霧雨と、時折薄陽の射すあいにくの天気の中、4合目までは新道を進む。5合目付近からは視界は回復しつつもあるが相変わらずの雨模様。それでもハクサンチドリ、シラネアオイ、イワカガミなどの高山植物に励まされ午前10時15分、八合目避難小屋に到着。山小屋では県山協の会員医師、看護師の協力で今年初めて開設された夏山臨時診療所が万が一に備える。小雨模様のため、120人収容の山小屋は満杯状態。一息入れて、正午に始まる山頂セレモニーを目指して砂礫帯を登る。外輪に出るころには、横なぐりの小雨模様となる。11時50分鈴木長官とスポーツ少年団の子供達も元気に登頂。山頂は多くの登山者で賑わう。正午に滝沢市、八幡平市、雫石町の登山隊によるピッケル交換、万歳三唱、鈴木長官も挨拶で国民の祝日山の日制定の意義、そして「雨の中でも多くの県民が岩手山登山に挑戦している姿は、昨年大成功に終わった希望郷いわて国体のレガシーだ。」と登山の普及に期待を述べ激励した。

今回の企画は、昨年8月11日に施行された祝日「山の日」が「国民こそって、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」であることの趣旨を広く県民に、周知されることを目的として開催された。



山頂での鈴木長官とスポーツ少年団



山頂での鈴木長官の挨拶

風雨の中、元気に鈴木長官と山頂に立った子供たちにとって、初めての岩手山登頂は、厳しくも楽しい思い出深い登山になったことでしょう。

今年も、山頂では沢山の機関旗、社旗、団体旗がたなびくなど1,500名を超える登山者が、歓喜の輪を作りました。

今回の山の日キャンペーンは、地元報道機関をはじめ、「見渡せば歓喜」の見出しで、各地方紙の紹介もあり全国に発信されました。また、岩手県山岳協会では、今年も山の日制定記念のオリジナルのぼりも作成して県内の主要な山の登山口に掲げるなど「山の日」周知に努めています。

(岩手県山岳協会登山普及部長 山口吉男)



# 平成29年度全国山岳遭難対策協議会報告

7月7日(金)10時より平成29年度全国山岳遭難対策協議会が国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された。今年は警察、消防、山岳関係者の約250名が参加したが、会場の関係から狭さが目立った。

構成は2件の報告と3件の講演で、初めに警察庁から28年山岳遭難の状況について報告された。

昨年の発生件数は2,495件で前年比-15件、遭難者数2,929人で前年比-114人といずれもやや減少結果となった。遭難の様子は道迷いがトップで、年齢層は中高年が77%、うち60歳以上が半数を占めている。また死亡者の率は単独登山者が圧倒的で、総数が減少したとはいえ傾向はここ数年全く変わってはいない。詳細は警察庁のHPをご覧ください。今年は単なる数字の発表だけでなく、男女別や地域別等に言及した報告がなされたのは進歩と言える。報告終了後に、件数発表を6月ではなく3月くらいにはできないのか?との質問があったが、内部の事情でなかなか難しいとの回答であった。

報告2として静岡市消防局から「消防機関における山岳救助訓練について」報告された。静岡市近郊では平成20年までに広域化が進み、山岳遭難に対して救助隊も一本化され一カ所に集約された。

静岡地区は3,000mを超える南アルプス山間部を網羅しなければならず、分散していた隊員が一カ所に集まる事で迅速な対応が図れるようになった。しかしながら山岳に関してはほとんどの隊員が素人であり、また任期ローテーションにより隊員が代わってしまうため隊としてのスキル向上がなかなか図れないのが現状である。そんな環境の中で四季にわたり実際数日間の縦走や沢登り、ヘリを出勤させた現地での実践的訓練を取り入れ技術向上に努めているとの紹介が行われた。

講演1では「コンパス新サービスについて」日本山岳ガイド協会、インフカム(株)の今さんから紹介があった。今までは登山届の提出と下山確認がメインで、情報共有はシステムと登山者、警察との連絡のみであった。これからは届け出を家族や仲間はもちろん、警察や行政と共有していく時代である。情報共有により、遭難が起きた場合、同じルートを通じた登山者からの情報提供も可能になる。平地のみならず、登山者にもIT化は押し寄せており、登山者のほとんどが登山中もスマートフォンを持ち歩いている。つま



り、火山情報や気象の急変についても登山中でもリアルタイムで情報が得られる環境にある。山小屋でも衛星Wi-Fiを利用したインターネットサービスが始まっている。また、ウェブ登録することで本人の現在地はもちろん、たどった軌跡や計画しているルートまでも把握することができる。もちろん個人情報セキュリティは万全にしなければいけない。道標代わりにモジュールを設置することで通過するたびに登山者はチェックされ、登山者側にはポイントが付加されるシステムも考えているようだ。たまたまポイントで温泉券がもらえるなど、インセンティブを付加することでより登山の楽しみを増してゆきたいとのこと。登山届け提出と言った強迫観念ではなく、届け出が楽しくなるようなシステムを提案していきたいとの事であった。

講演2では「日本の登山事故をなくすための課題」について名古屋工業大学の北村教授より講演いただいた。

登山は過酷な環境で行われるものであり、当然対応するためのスキルが必要であるが、すべての登山者が自分の目指す登山環境と自己のスキルが一致しているとは限らない。アルピニズムは今やツーリズムであると言った意見もあるが、自然の厳しい環境は何ら変わっていない。いくら登山道が整備されても環境の厳しさまでもが変わるわけではない。登山という行為は目的から始まって、計画、準備、実行、報告、これをまわすスポーツである。更に大切なのは引き返す判断ができるパーティーでなければならないと言う事。またアクシデントをバックアップするためのシステムが必要である。大学山岳部であれば留守本部がこれに相当するし、有事に出勤してくれる警察、消防の方々を含んだ

救助も必要で、つまりはチームワークが大切である。教授は登攀で使用するロープや支点の在り方についても言及された。まとめとして「登山は登山客から自立した登山者へ」との提言をされていた。講演全体としては登山者向けの内容であったように感じた。

講演3では「事故を防ぐための気象判断」と題して(株)ヤマテンの猪熊さんより講演いただいた。

新たな試みとして「ワークショップ議題」として参加者によるディスカッションを行った。

近年、気象に関係する遭難として低体温、沢の増水、落雷事故があげられる。気象に関してはほとんどの方が天気予報を活用しているが、平地と山とでは天気も大きく異なり予報をうのみにするのは危険であり、天気図を理解し予測することが大切である。地図でいえば国土地理院の2.5万分の1地形図を活用するのと同じである。過去の報告や最近はSNSなどの投稿もあるが、これらの投稿はその人の主観的意見なので、これもまたうのみにするとリスクがある。登山する地形や行程に潜む危険を予知し、必要な装備を備えることが重要である。低体温と気象については白馬およびトムラウシでの事例を上げ、天気図を照らし合わせての詳しい解説が行われた。春に起きた立山での小型機事故と気象についても触れていた。日本の山岳地帯では山脈を越えていく山岳波と呼ばれる風が良く吹くため注意が必要である。

「ワークショップ」では疑似天候が予測される4月30日、白馬三国境で1名の遭難者から通報ありとの設定に基づき、これにどう対応するのか警察、消防、山岳関係者それぞれで検討した。代表として長野県飯田消防の方から検討結果を発表いただき、発表に対して猪熊さんより総評をいただいた。

講演4では「山岳遭難へのドローン活用事例」について東京都山岳連盟中嶋副会長から講演いただいた。都岳連では2年半ほど前からドローンに関する研究を行っており、スカイシーカーはじめドローン製造メーカー他5社との提携も結んだとの事。今年5月にはあきる野市でドローンの講習会も開催した。ドローンを飛ばすに当たっては航空法の関係で承認、許可を得る必要がある。本体は電子機器であるため搬送には十分気を配る必要がある。また、ドローンの特性として風や低温環境に弱い事、木などの障害物に考慮した操縦を行わなければならないなど詳細にわたり注意事項を教授いただいた。活用事例として昨年行方不明となった新潟のボーダー捜索で6月に行なわれたドローンによる捜索が報告された。

最後に国立登山研修所宮崎所長より恒例の「山岳遭難事故防止のために」の提案と、日山協亀山副会長からの御挨拶をいただき、17時閉会となった。

## 「山岳遭難事故防止のために」

### 登山者は山岳遭難事故防止のために次のことに取り組む

- 登山の第一歩は、目的とする山を良く理解することからはじまります。地図を基本にガイドブックや現地等から事前に山岳情報(登山道の状況、積雪量や雪崩の危険性、山小屋の営業期間など)を調べること。
- 登山計画書を作成して、パーティー全員がその山を良く理解するとともに、体力と経験に応じた無理のない計画であるかよく検討すること。
- 登山計画書を家族や職場に知らせるとともに、登山届の提出が義務化されている山域もあるので、各都道府県の提出先や登山口の登山届ポスト等に必ず提出すること。
- 単独登山はやめて仲間と登り、ツェルトや救急用品、非常食を必ず携行して、ゆとりある行動を心がけて、安全登山を行うこと。
- 山の事故は自己責任であることをよく考えて、山岳保険には必ず加入すること。
- 危急時に確実に連絡を取れる手段を確保するために、無線機、携帯電話等の通信機器を持参して登山を行なうこと。
- 登山に出発する前に、目的とする山域の最新の気象情報・火山情報等を入手して、現地の状況を把握すること。
- 登山中は常にパーティー全員の体調や疲労に注意を払い、コースの状況・気象条件等に応じて下山するなどの冷静な判断を行い、山岳遭難事故を絶対に起こさない心構えで行動すること。

### 関係者は山岳遭難事故防止に向けて次のことに努める

- 登山計画書の提出を奨励し、計画的で安全な登山の





普及に努める。

- 登山道、道標、トイレなどの整備とその適切な管理に努める。
- 今後設置する道標及び案内表示の様式、表記方法等について、可能な限り統一に努める。
- 詳細な山岳情報、気象情報、火山情報等の提供に努める。
- 中高年登山者やツアー登山参加者の安全確保に努める。

(記 遭難対策委員長 町田幸男)

## 平成29年度遭難対策委員会研修会兼総会

遭難対策委員会の平成29年度の研修会と総会が大坂府岳連はじめ関西地区岳連の協力で平成29年6月24日から25日にかけて伊藤克己副会長以下48名が出席し神戸セミナーハウスで開催された。24日は研修会で全体進行は石田常任委員が行った。最初に東京都岳連の松本光顕常任委員から「ドローンの山での活用について」映像で説明があった。その後、テニスコートに移り、実際にドローンを飛ばして音や操作性を確認した。続いて現在、講習内容や資格制度の制定に向け指導委員会と遭対委員会が協力して進めている夏山リーダーについて西内遭対副委員長より説明があり、あわせて英国の登山研修所の施設や環境の写真による報告があった。引き続き那須山雪崩遭難事故について注意すべきポイントの報告があり、栃木の喜内会長から補足があった。6月30日に検討委員会の中間報告、9月末に最終報告書が出されるとのことであった。

最後に各県の情報交換を行い、青山副委員長から本日本配布した事故に関するアンケートに関しての説明があり3,000件と言う山岳事故のうち実に1/4もの事故を日山協傘下で起こしている。この具体的対策活動はかにか？という問いかけがあり各県との意見交換があった。研修会終了後、懇親会が行われた。

総会は25日に行われ石田常任委員が全体進行を行った。伊藤日本山岳・スポーツライミング協会副会長の挨拶で開会し、西内副委員長から平成28年度事業報告、平成29年度事業計画の説明があった。28年度の新事業は指導・遭対合同技術研修会、大規模雪崩事故に対応したA v S A R協議会である。町田委員長からA v S A Rの講習会の参加報告があった。

引き続き遭難対策委員会の若返りのための新体制について報告があり、町田幸男副委員長が常務理事、委員長に、石田、青山、西内常任委員が副委員長に就任した。町田新委員長から石田副委員長が技術、講

習会を、青山副委員長がU I A A、S A R担当、西内副委員長が夏山リーダー、渉外を担当、また事務局・会計を瀬藤、岩切、神垣、松本が担当するほか、各常任委員に役割を分担していただき総力で取り組みたいとの挨拶があった。

その後、町田委員長から指導・遭対合同技術研修会について報告があり、目的が指導では指導員検定の為、遭対では実際の事故時対応の為という違いのために差があることを認識した。用語の統一も道半ばとのことであった。常任研修に参加されたい委員の方はぜひ参加してください。続いて青山副委員長によるS A R報告、U I A A登山委員会報告そして山岳事故調査報告が行われた。U I A Aでは那須岳雪崩事故に関する報告を行った。なおラッセルと言う用語はラッセル車を開発した人の名なので通じなかったとのこと。山岳事故調査報告では事故件数などが減少に転じたが、この傾向が続くか見守る必要がある。日山協の事故率が労山の事故率に並んだ。また組織登山者の事故率が、未組織登山者の事故率より高いとの報告があった。登山者の常識では春山のリスクは冬山よりも低い。しかし、近年冬の積雪より春の積雪が多くなり、冬より春の雪崩事故が多くなっているため認識を変えるべきではないかなどの議論があった。

登山部門の影が薄い中で開かれた総会であるが、着実に活動していることを感じさせるとても有意義な研修会、総会となった。

(遭難対策副委員長 西内 博)

## 平成29年度中高年安全登山指導者講習会

〈東部地区〉

期 日 平成29年9月22日(金)～24日(日)  
会 場 静岡ホテル時の栖、竜爪山  
参加費 24,000円

〈西部地区〉

期 日 平成29年10月7日(土)～9日(月・祝)  
会 場 山口県セミナーパーク、陶ヶ山連山  
参加費 20,000円

快適なロッジに泊まりながら、タスマニア島を北から南へと大縦断

限定11名様 **タスマニア島**  
**オーバーランド・トラック 10日間**

発着地 東京 旅行代金 ¥678,000～¥698,000

出発日 11/24(金)・12/8(金)・1/12(金)・2/9(金)

※燃油サーチャージ(2017年7月20日現在)は旅行代金に含まれております。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

 **アルパイン ツアー サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

## 平成29年度年指導委員総会及び研修会開催

平成29年度指導委員総会が6月3日(土)、4日(日)で開催され、39都道府県56人の参加があった。

まず、亀山健太郎副会長から「今後の日本山岳・スポーツクライミング協会の運営に関して、今までの体制ではいられない状況で、役員の大規模な改選を行った。心を引き締めて勉強しながらやっていかなければいけない。指導は山岳とスポーツクライミングの両方の運営にかかわっている。皆様にもご協力いただきご指導いただきたい。」と挨拶。

次いで瀧本健指導委員長から「今年、那須等の大量遭難があって、指導者制度の問い合わせも多くあった。各岳連でも指導者養成講習会の運営ができない状況である。岳連単独でできないので地域での開催を考えていかなければならない。スポーツクライミングの指導者養成もどこでも受けられる体制になっているので、運営を工夫していかなければならない。指導者制度の大規模な改定が迫っている。夏山リーダーの運営もようやくテキストができた段階。皆さんで力を合わせて解決していきたい。今年で退任となります。以降、蛭田指導委員長のもとで宜しくお願い致します。」と挨拶。平成29年度からの指導委員会常任委員について紹介があった。

### 1. 研修会(瀧本)

- 日本山岳協会から日本山岳・スポーツクライミング協会へ変更になったが略称は日山協のままでいくことになる。
- スポーツ指導者制度の検討プロジェクト、基本計画、競技別指導者資格の資格区分改定案についての話があったが、即時実施は難しいのではとの見解。(国体監督資格についての質問)現状では山岳でもスポーツクライミングでも両方可。今後のコーチの資格についてのメリットは山岳でも以前から問題となっているが、国家資格になれば変化する可能性もある。資格制度の問題として日山協の傘下でないところがあるので、その点も今後の課題。
- 指導者関係書類について日本山岳・スポーツクライミング協会の名称変更を行っている。(ホームページから取得可能)
- 指導遭対合同技術会議での報告があった。ロープを結索(けっさく)するなどの用語統一。制動確保の必要性、ハーネスへの結索方法、留結びに関しては強度的には変わらないとの見解。
- A C / S C 指導員、上級指導員検定基準及びテキスト



トについて見直し、改定をした。今後、ご指摘等いただき、製本することになる。

\* U I A A 準拠、夏山リーダー資格について日山協登山部の西内博氏と清水学両氏から日山協の一般登山者への登山教育について説明があった。冬山、バックカントリースキーでも雪崩、遭難等の事故が多発している。緊急避難等も含めた冬山の対策も今後検討してもらいたいとの意見も出た。

### 2. 総会

翌日は総会として、蛭田新委員長より、事業報告、事業計画等の説明があり、特にスポーツクライミングの義務研修について更新の機会が少ないことからブロック別研修会時に実施。ホームページに掲載。国体監督会議時にも実施する方向であることが示された。平成29年度の登攀技術研修会は福島県で開催。30年度は愛知県で検討していただくことになった。

スポーツクライミング指導者養成講習会の計画については、今年度は宮城県で中央開催される。関東での開催(日程調整中)ブロック別研修会時にも開催する方向で調整中。

ブロック別意見交換会では

テーマ：U I A A 公認、夏山リーダー資格について下記項目で討論された。

- ① 販売店との共催は？
- ② 1 販売店に特定することは？
- ③ どのような資料が今後欲しいか
- ④ 自分の都道府県で開催可能か(地域協力が必要か)
- ⑤ その他

共通して、登山用具販売店との共催は問題ないが、1店舗に限定するのは地域事情もあり難しいとの意見が多く出た。資料としては共通の指導ができるようなパワーポイントの作成の要望があった。また現行の登

山教室との調整もしなければならない、単独都道府県では集客が難しいとの話もあった。

最後に、西内氏より「2日間の熱心の討議ありがとうございました。組織の問題、課題は沢山あり個人の力を組織全体で取り込んでいく必要がある。上部任せでは進まないの、皆様の声を反映していく必要があると思いました。皆様の人材力は大きい。」とのコメントをいただいた。

蛭田伸一新指導委員長より「荷が重い責務ですが、代表として出る以上、皆様の協力がさらに必要になってきます。スポーツライミングの方との連携を図ってもらいたい。オリンピックだけでなく、その先も見据えた協力をお願いします。」と挨拶があった。

(文責：指導委員会 野村善弥)

## スポーツ指導者制度を考える

(一社)大阪府山岳連盟 専務理事 飛田典男

2005年に公認スポーツ指導者制度が改訂されてから10数年が経過し「新しい時代にふさわしい指導者＝グッドコーチ」を目指して来年度にスポーツ指導者制度はコーチ制度として5段階のアスリート養成を主眼としたものに大改革されることをご存知でしょうか

指導者のコーチとしての意識改革が目指されていることは理解できるし、競技性を追求するスポーツには適した制度である。山岳の競技性については兼ねてより論じられてきたところであり、その変遷が国体競技におけるクライミングへの特化がそれを象徴している。スポーツは本来競い合うことのみを追求してきたものではないことは誰もが理解するところである。この競技性を追求しないスポーツにはコーチとしての役割は必要である。特に登山では経験に裏打ちされた正しい知識と技術が大自然の中で安全に行動する為には必須のものとなる。これを担うものがアスリート養成するコーチと通ずるところが無いとは言わないが似て非なるものの様に思われる。

山の安全を確保する為には全国の山岳指導員の存在が不可欠であることは論を待たない。山の安全は正しい技術と知識の伝道者である指導者が継続して育成され、現場の第一線に立ち続けてこそ実現されると考えている。しかしながら、その指導者の高齢化と指導員の育成が思うに任せない状況が登山の安全の根幹を揺るがしている。2016年のJASA公表の全国山岳資格別登録者数はSC指導者を含めて指導員・上級指導員・コーチ・上級コーチ(890・1,011・60・72人)である。この陣容で山の安全を指導できるのであろうか。加え

てこの方々の少なくとも半数が60代以上であると推察される。岩と雪を目指す登山者が少なくなったとはいえ、20万人の登山愛好家の安全を守る為には少な過ぎる指導者の数である。

また、指導員養成講習会を開催している都道府県は昨年で10団体であり、協会主催の養成講習会もあるものの全国的には指導員育成が等閑にされているのが実態である。

これらの課題を検討する上での山を取り巻く国内状況を確認してみると、レジャー白書2015年では「ピクニック、ハイキング、野外散歩」が余暇活動の20位にランク付けされ、2,440万人が登山人口とされている。この中で登山愛好家が約20万人ほどである。レジャー登山は、日帰りで整備されたルートを楽しむ野外活動と位置付け、施設の整備等は行政的な取り組みが待たれるところである。これ以外にツアー登山やガイド登山などへの対応もあるが、これらはプロ集団に委ねられる。

翻って20万人の登山愛好家が山の指導者の技術と知識を必要としている。その中でも岩と雪を目指す登山者は10%程度であり大半がハイキング志向者である。これらに即した指導員養成内容となっていないことが指導員資格取得のハードルを高くし、必要とされている指導員が育っていない状況は10年以上前から続いている。事故が起きてからの対策ではなく、未然に事故を防ぐことへの役割を果たす指導員の存在が重要なのである。

以上、問題点を要約すると、

1. 新たなコーチ制度は登山に馴染まない
2. 指導員養成のプロセスが崩壊しかけている
3. 指導員検定内容が現状にマッチしていない
4. 遭難対策委員会とのコラボの進展がない

協会を取り巻く環境がSCの隆盛も加わり錯綜しているのが実態であろうが、本質的に取り組む課題が異なるものを取り混ぜて検討することは時間の浪費でしかない。

第1の問題点であるコーチ制度への移行に関しては、この新たな制度を好機として現状の指導員制度を根本から見直し、再構築することがベストであると考えられる。検討した結果、馴染まないとの結論に達するのであればこの制度と袂を別つことも選択肢である。

第2は、3年間で全国の指導者を5千人育成するアクションプランの策定である。これには協会認定の指導員とし検定員を全国に派遣すると共に検定員の認定も併せて行い、独自開催の方向付けを行うことも重

要である。特筆しておきたいのは杵を設けないことである。協会傘下の会員に限定せず、山の安全に興味のある方ならどなたでも参加できるものとした。そして、教育関係者である教諭や教員並びに高等学校の生徒や大学生などにも門戸を開いたものとしたものである。

第3は、ハイキング主体の指導員に必要と思われる検定項目に絞り込み、動画等で分かり易く客観性の高いテキストを作成し検定員の判断レベルを標準化することである。

第4は、指導と遭対の技術の相違とか用語の統一とかではなく、セルフレスキュー技術をどのレベルでは何処まで適用できるようにするかを論ずることの中で解決できると考える。また、英国に学んだヒルクライム指導のノウハウを是非とも新たに作成する指導要項に盛り込んでいただきたい。

新たな制度が策定されつつある中で、現状の指導員制度の綻びが見え隠れしている。この状況の中で新たなコーチ制度は更に混乱を惹起させ空洞化が予測される。岐路に立つ山岳指導者制度のあり方を広く全国に問い、意見を求めた上で早急にあるべき姿と進むべき道を見極めるべく始動されることを望むものである。勿論、及ばずながら指導員の一人として可能な限りあるべき姿に尽力することは吝かではない。

## 平成29年度自然保護常任研修会

平成29年6月17日、18日の2日間、神奈川県立21世紀の森及びその周辺にて、平成29年度自然保護常任研修会を開催した。一帯は神奈川県西部で足柄平野を前面臨む箱根外輪山の東側にあつて、「大雄山最乗寺の天狗」の伝説と、美林を誇る山林域として著名である。この地の民俗伝承と森林についての学習を通して、山岳自然保護を考えることを今回の目的とした。研修会には常任委員と関東地区の山岳連盟の自然保護委員の32名が集った。

第1日目はイラストレーターのとよだ時氏を招き「山岳と天狗信仰」について、紅葉淳一常任委員から「足柄の森林について」約2時間のレクチャー、林内の散策を行った。

### (とよだ氏レクチャー概要)

とよだ氏は「日本百霊山・伝承と神話でたどる日本人の心の山」と題した著述をヤマケイ新書からだされており、このほか天狗を題材にしたイラストを取り入れた興味溢れる著述をされている。今回、「大雄山最乗寺」の天狗に因み、各地の山岳などにおける天狗の伝

承話を聞いた。

古来、有名な霊峰には天狗が住んでいたとされ、富士山の「太郎坊」、筑波山の「法印坊」、大山(だいせん)の「伯耆坊」…のように天狗に名前がついている。丹沢(相模)大山(おおやま)も同じ大山伯耆坊の名が伝わっており、相模大山の相模坊(最乗寺の天狗のこと)が崇徳上皇の霊を慰めるために四国の白峯に行ってしまったために、伯耆から相模に移り住んだという。

天狗にも階位があつて「大天狗(鼻たか天狗)」「小天狗(からす天狗、木の葉天狗)」「狗賓(ぐひん)」など。一般的な姿は修験者の様相で、その顔は赤く、鼻が高い、憤怒の形相、翼があり空中を飛翔する。民間信仰において神とも魔物ともされる超能力(神通力)を備えた伝説上の存在。また女性の天狗を「尼天狗(女天狗)」と呼ばれる。

時代を経て、天狗信仰は、やがて山岳自然の中で艱難辛苦の修行を行う修験道と習合して、天狗は修験者や山の自然を守る神様だと思われるようになった。

明日巡る予定の大雄山最乗寺の天狗(大天狗)は、修験道の満位の行者 相模坊道了尊者として、道了大薩埵(ダイサッタ)との高德の僧をたたえて付ける尊称が与えられ、諸願成就の尊崇を集めている。

### (紅葉委員レクチャー概要)

元神奈川県の実業職であった委員から、足柄林業地の実情について話を聞いた。

この地一帯は足柄林業地として、神奈川県を代表するもので明治29年から本格的な造林が行われてきた。荒山が目立つ各地の造林地が通例であるが、この地は比較的によく植えられ、良く育っている。足柄林業地は東西7km、南北12kmに及びスギ・ヒノキ・クロマツが分布する。かつては農耕用に採草や薪炭採取で全山草生原野であったところ、造林によって森林を取り戻し用材林化が進んだ。行われている施業は短伐期型で小丸太・中丸太の量産林業となっている。



一方、大雄山最乗寺の寺社林も抱えており、樹齢400～500年の老スギが県指定天然記念物として鬱蒼と茂り、寺社の建物を納めている。山林面積は約100畝を占める。

第2日目、当初、明神岳の登山であったところ、雨天の兆しがあったことからコース変更し、「あしがら森林公園・丸太の森」整備された人工林と大雄山最上寺奥の院周辺の寺社林を巡検した。

「丸太の森」は大雄山最乗寺の寺社林に隣接して、

24万㎡のよく整備されたスギ林を1時間ほど散策し、紅葉委員から森林施業について説明を受けた。そのあと大雄山最乗寺に向かい、道了大薩埵の社を拝み、寺社林の老木林のなかと350段余り急階段にあえぎながら奥之院を巡った。

下山後、門前のそば屋「十八丁目茶屋」でトコロ蕎麦の昼食を摂り、三々五々夫々の帰途に就いた。

(記 自然保護委員長 松隈 豊)



平成29年度(29年7月)  
常務理事会報告

日 時 平成29年7月12日(水)  
18時～21時10分

場 所 岸記念体育会館・4階会議室

出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤の各副会長、尾形専務理事、小野寺、村岡、合田、仙石、蛭田、町田の各常務理事、中島、古屋監事

委 任：平山副会長、水島、小日向常務理事(14名中11名出席)

## 1. 議 事

- (1)平成29年度6月常務理事会・議事録の承認について(事前送付済) 異議なく承認された。
- (2)専門委員委嘱について アスリート委員会メンバーについては今後の課題とする。2020年第3回冬季ユースオリンピック大会に山岳スキー競技が正式種目に決定されたのを受けて、山岳スキー委員会を追加することにした。
- (3)雪崩災害防止功労者推薦について 8月常務理事会までに該当者の候補者推薦することで承認。
- (4)参与の推薦について 山口県山岳連盟顧問の西村亘氏を理事会に推薦することで承認。
- (5)組織・管理運営規程の整備について 諸規程整備のためにガバナンス委員会の設置が提案された。規程の改廃は理事会事項なので、9/3に臨時理事会を開催することで承認。
- (6)理事会の決議方法について 合田常務理事からスカイプ等を利用したテレビ会議について提案があり、理事会に提案することで承認。
- (7)予算委員会の運営について 合田常務理事から資料に基づいて提案があり、次回常務理事会に再提案することで承認。
- (8)2018年度SC競技大会日程について 村岡常務理事から資料に基づいて提案があり、方向性について了承された。
- (9)セッター日当の見直しと作業ガイドラ

インの作成について 村岡常務理事から資料に基づいて提案があり、理事会に諮ることで了承された。

## 2. 報告事項

- (1)6月度月次決算報告について
- (2)上月財団助成
- (3)練習中の事故防止に関する注意喚起 以上、3事項について小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (4)中高年登山指導者講習会(東部・西部地区)開催要項について 仙石常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (5)JOC交付金について
- (6)平成29年度国際委員総会兼海外登山技術研究会について 以上、2事項について小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (7)BWC八王子大会報告
- (8)WC第6戦ナビムンバイ報告 以上、2事項について村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (9)JSCによる28年度助成事業実態調査 小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (10)代表選手の肖像権について 合田常務理事から肖像権は基本的には個人に属している。との報告があり、基本的にNFは選手のためにあるものだから、肖像権は選手に戻すことを前提に代理店と協議したい、と報告があった。
- (11)来年度からの三種複合大会について JOCジュニアオリンピックカップを複合競技大会にしたい旨、報告があった。スポーツ拠点づくり自立促進事業なので、来年度から中止できるのか、地域活性化センターに確認する必要がある。
- (12)小林由佳氏の強化スタッフへの復帰について 合田常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (13)2020オリパラに向け内閣サイバーセキュリティ対策勉強会 小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (14)山岳スキーの2020ローザンヌ・ユー

- スオリンピック競技種目決定について 小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。前述の通りである。
- (15)山岳レスキュー講習会開催要項について 町田常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (16)駒沢体育館内覧について 村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (17)強化戦略プランについて 小野寺常務理事から資料に基づいて報告があった。
- (18)山岳共済会運営委員会報告について 尾形山岳共済会・会長から資料に基づいて報告があった。那須雪崩の保険金支払いについては、死亡高校生の付保保険は、対象外保険のため、支払いは難しいとの事。
- (19)遭難対策委員会報告について 町田常務理事より報告があった。
- (20)鈴木スポーツ庁長官の岩手山登山について 高橋副会長から資料(岩手日報・新聞)をもとに報告があった。

## 3. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)埼玉岳連「小江戸川越夕涼み・講演とコンサート」後援名義について
- (2)第4回SC学生対抗選手権後援名義について
- (3)認定国際山岳医後援名義について 以上3件、異議なく承認された。

## 4. その他の重要事項

- 6月5日～7月8日
- (1)愛媛国体リハーサル(LJC) 6月9日(金)～11日(日) 於：愛媛県西条市 八木原会長、高橋副会長、村岡SC部長、西原国体委員長
- (2)スポーツ&アウトドアツーリズムフェスタ in 昭島 6月11日(日) 於：モリパークアウトドアヴィレッジ 亀山・平山副会長、合田常務理事
- (3)ISMF総会 6月16日(金)～18日(日) 於：アンドラ 笹生委員
- (4)国立登山研修所専門調査委員会 6月19日(月) 於：JSC会議室 尾形専務理事
- (5)ワールドゲームズ大会実務者会議 6月20日(火) 於：アーク森ビル 尾形専務理事

- (6)平成29年度スポーツ安全協会評議員会 6月22日(木) 於:霞が関ビル・東海大学校友会館 尾形専務理事
- (7)スポーツマンクラブ総会・岡野俊一郎氏偲ぶ会 6月22日(木) 於:スポーツマンクラブ 八木原会長
- (8)平成29年度日本体育協会定時評議員会 6月23日(金) 於:品川プリンス 尾形専務理事
- (9)遭対委員会総会 6月24日(土)~25日(日) 於:神戸市立神戸セミナーハウス 伊藤副会長、町田委員長
- (10)平成29年度JOC評議員会 6月27日(火) 於:NTC 八木原会長
- (11)衛藤征士郎議員在職40年記念祝賀会 6月27日(火) 於:東京プリンスホテル 八木原会長
- (12)平成29年度日本ワールドゲームズ協会総会 6月28日(水) 於:日本財団ビル 尾形専務理事
- (13)祝日「山の日」制定記念事業イベント2017「みんなでふるさとの山を登ろう!」 6月30日(金)~7月1日(土) 於:岩手山 高橋副会長、小野寺常務理事

- 理事
- (14)文部科学大臣顕彰及び表彰 7月3日(月) 於:ホテルニューオータニ 八木原会長
- (15)日体協競技団体評議員連合会幹事会 7月3日(月) 於:岸記念体育会館 尾形専務理事
- (16)第56回全日本登山大会 北海道大会 7月5日(水)~8日(土) 於:定山溪ビューホテル、羊蹄山ほか 八木原会長、尾形専務理事、仙石常務理事
- (17)ワールドゲームズ壮行会 7月5日(水) 於:スポーツマンクラブ 亀山副会長
- (18)全国山岳遭難対策協議会 7月7日(金) 於:オリンピック青少年センター 亀山副会長、小野寺常務理事、町田常務理事
- (19)ネパール観光促進感謝の夕べ 7月7日(金) 於:ネパール大使公邸 亀山副会長
- (20)東京2020オリンピック大会国内競技団体の大会準備等に関する連絡会 7月12日(水) 於:新宿パークタワー 11F 尾形専務理事

## 寄贈図書

寄贈本	(株)山と溪谷	「山のリスクセンスを磨く本」著:昆 正和
	(一社)日本登山医学会	「高山病と関連疾病の診療ガイドライン」編:日本登山医学会
雑誌	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.842
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」8月号 No.988
会報	(株)山と溪谷社	「登山白書」2017編:ヤマケイ登山総合研究所
	(公社)日本山岳会	「木の目 草の芽」第128号
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.481
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》259
	八王子山の会	「山となかま」No.129
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へ」第575号
	横浜山岳会	「山」1021号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.471
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.59
	全日本ボウリング協会	「JBCnews」第548号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第601号
	中国登山協会	「山野」2017 7 総226期
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.184
	(公財)日本体育協会	2017年7月3日号 体協フェアプレイニュース/体協スポーツニュース
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」2017.8
	中華民国健行登山會	「中華登山」181
	大阪府立体育会館	「季刊 府立体育会館」No.121
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.334
	日本体育協会	「Sport Japan」vol.32
	(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーんもあ」Vol.78
	東京都山岳連盟	「都岳連通信」2017年2号
	(株)山と溪谷社	「日本山岳遺産基金通信」No.013
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.510
	大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.213
	東京野歩路会	「山嶺」No.1049
	(公財)全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」Vol.33
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第444号
	日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」No.106
中国登山協会	「山野」総227期	
(公社)日本山岳会	「山」No.866	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.692	
Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.223	

### 今後の予定

- 臨時理事会 9月3日(日) 10時30分~ 岸記念体育会館 5F
- 自然保護委員総会 9月9日(土)~10日(日) 白山・御前荘
- 第72回国体山岳競技抽選会 9月10日(日) 15時~ 岸記念体育会館 102号室

### 編集後記

8月11日は祝日「山の日」が施行されて2回目を迎える。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」の主旨で各県独自のイベントが計画されているようだ。この日が大自然の中での野外活動の楽しみかた、その中に潜む危険、いわゆる“ヤバイ”を感じ取る五感が身に着く機会になればと思う。イベントの成功を祈念します。(広報担当 水島彰治)

### 登山月報 第581号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成29年8月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

一般財団法人 日本トレイルランニング協会  
 神奈川県事務局  
 〒252-0184  
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

妙高赤倉マウンテンレース  
 パーティカル5K & トレイルラン25K

NPO法人 北丹沢山岳センター  
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会  
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL. 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp  
 ● 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会  
 ● 陣馬山トレイルレース実行委員会  
 ● 道志村トレイルレース実行委員会  
 ● 八重山トレイルレース実行委員会  
 ● 東丹沢ヶ瀬トレイルレース実行委員会  
 ● 上野原秋山トレイルレース実行委員会  
 大会々長 杉本憲昭

山岳  
雑誌

# 岳人

9月号  
発売中

毎月15日発売

「岳」を愛するすべての人へ、山の魅力や文化を伝える山岳雑誌「岳人」。1947年の創刊から、70周年を迎えました。これを記念して、2017年9月号から冊子サイズが大きくなり、文字もさらに読みやすくなりリニューアルしました。よりいっそう充実した内容でお届けします。



創刊70周年記念  
サイズUPして  
さらに読みやすく  
リニューアル!

## 年間購読がおすすすめです。

**購読割引** **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 **9,780円** (+税)  
年間購読12冊 **8,965円** (+税)  
1年間で815円  
1冊分無料

### 年間購読特典

岳人フォールディング  
スプーンをプレゼント!

フィールドで活躍する  
スプーン&フォーク。  
岳人オリジナルの  
収納ケース付き。



折りたたみ時▶

「岳人」2017年9月号

特集 **槍ヶ岳** 新価格815円 (+税)

【連載】

梶山 正「百名山冬期登頂記」／斎藤 潤「しま山100選」／山の学問／登山と体／とっておきの山歩きほか

★モンベルのウェブサイト、  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読  
お申し込み方法

◎ウェブサイトで  
<http://www.gakujin.jp/>

◎お電話で (受付後に振込用紙をお送りします)  
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp/>

期待される、  
という希望。

期待されすぎている、  
という不安。



## 未来は、 希望と不安で、 できている。

明日をつよく。三井住友海上

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

# あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト  
( [www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/) )



WEBからもお申込みいただけます ( [www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com) )